

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 052	提案機関名 公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会
要望問題名 ワカメの温暖化対応品種の作出と養殖漁場への普及	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】  神奈川県沿岸の漁業者の多くが秋季から冬季にかけて、ワカメ養殖を行い、漁業収入を得ている。 ワカメ養殖のための種糸の供給は、今までは、みうら漁協南下浦支所金田の菊丸が一手に県下の養殖業者 に供給してきた。 しかし、菊丸は高齢のため、ワカメ種糸事業から撤退しようとしており、このままでは今後の県内への種 糸の供給に支障を来す懸念がある。 一方で海の高水温化により種糸の供給時期は、5年以上前は10月下旬であったものが、2024年には12 月中旬に遅れ、そのためワカメ養殖期間が短くなり、収量が減っている。 このことから、養殖ワカメの高水温耐性品種の作出を水産技術センターで行い、さらに、その種糸の現場 での養殖を実証して、漁業現場への高水温耐性品種の普及を行ってほしい。	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部
対応区分	①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) フリー配偶体を用いたワカメの優良系統の開発		
対応の内容等	県では、現在、ワカメのフリー配偶体による優良品種の開発に取り組んでおります。これまでに、この方法 により作出された系統のなかに、高生長形質を有するものが見つかっております。この高生長系統は、1月に 沖だししても、3月には通常の成藻サイズに生長し、収穫が可能です。今後、これらの量産化を目指すとともに、 現在、水産技術センターで保存している他のフリー配偶体も活用して、高水温耐性等の優良形質を兼備え た新たな品種開発についても取り組んで参ります。 フリー配偶体技術を活用した種糸の現場での実証にあたっては、漁場ごとに異なる環境特性や漁業者ごとに 異なる生産時期等、多岐にわたる条件で実証試験が必要となります。そのため広く漁業者に協力を募って実証 を進め、供給体制を検討して現場への普及が図れるよう取り組んでまいります。		
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			